主催者挨拶

古河市教育委員会
教育長 吉田 浩康

日本最古の歌集『万葉集』にその名を現して以来、長い歴史を重ねながら多くの文学者・芸術家・文化人を輩出してきたわがまち古河は、まさに「歴史・文化・芸術のまち」といえます。

そんな重層的な歴史を持つ古河はまた、鷹見久太郎という名編集者を生み出しました。「絵本黄金時代」と呼ばれた大正から昭和にかけての時代、鷹見は『コドモノクニ』という絵雑誌を発行します。文学と美術、さらには音楽を融合させたこの雑誌は、のちの幼児向け絵雑誌の祖型になったともいわれ、児童文学史上に期を画す雑誌でした。その『コドモノクニ』と後継誌『コドモノテンチ』両誌の原画という文化的所産を活用し、現代にあらたな児童文学のうねりを興そうという趣旨で始まった公募企画が「1ページの絵本」です。

平成20年の国民文化祭をきっかけに始まった本企画も、回を重ね17回目となりました。本年度も、全国各地から小中学生の部5,700点、一般の部512点と、大変多くのご応募をいただきました。ご応募くださいましたすべての皆様、また、授業や課題等で取り組んでくださいました学校関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、入賞された皆様には心よりお祝いを申し上げます。

さて、鷹見久太郎は『コドモノクニ』の創刊にあたり、「情緒を育み、五感のすべてに訴えかけて心身の健やかな成長を促す」という編集方針を掲げています。そのためには真の芸術に触れる必要があるとし、当時一流の作家・画家を起用するとともに、作品が良質であれば無名の若手でも積極的に登用しました。

それからおよそ一〇〇年。現代はグローバル化・IT化が進み、また、チャットGPTに代表される人工知能(AI)の著しい発達により、当時とは比べものにならないほど、さまざまな情報を簡単に入手できるようになりました。その一方で、安易な情報化への依存は、思考力や理解力を奪い、ひいては人間性の喪失に繋がりがねないということも懸念されています。

人間が人間らしく生きていくためには、豊かな情緒に基づく自由な発想力や創造力、相手への理解力、共感力などが必要とされるのではないと思います。すなわち、現代こそ、文化・芸術の力が大いに必要とされる時代であるといえるのではないのでしょうか。「1ページの絵本」はそんな時代の要請に応える、真の人間形成に役立つ企画でありたいと考えております。今後とも皆様の温かいご支援・ご協力を賜れば幸いです。

最後になりますが、審査の労をお取りくださった選考委員の諸先生をはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。